要援護者利用施設における

洪水時等の避難確保計画

通所介護施設

令和５年７月版

社会福祉法人ジェイエイ小松福祉会

≪ 目 次 ≫　 　　　　　　　P

はじめに

1

2

６

７

８

９

12

22

30

32

34

本計画の内容

Ｓｔｅｐ１　現状把握

様式‐１ 計画の目的～４ 施設の利用者・職員数

様式‐２ 施設の水害リスク

様式‐３ 施設の影響と防災設備

Ｓｔｅｐ2　水害時の防災対策

様式‐４ 気象・河川水位情報等及び避難情報の収集

様式‐５～９ 施設の対応・避難

様式‐１０ 洪水時等の行動

Ｓｔｅｐ3　水害に備えて日頃から準備する

様式‐１１ 備蓄品・非常持ち出し品等

様式‐１２ 防災教育・訓練

様式‐１３～１６ 防災体制一覧表等

様式は１～１６まで有ります。

様式の記入方法は３つのステップに分けて説明書きが有ります。

様式ごとに変更が必要ないものや毎年見直しが必要なものに分かれます。

はじめに　　避難確保計画の必要性について知りましょう。

平成２９年６月の水防法改正において、浸水想定区域内の要配慮者利用施設の管理者等は、避難確保計画の作成及び作成した計画に基づく避難訓練の実施が義務となりました。また、令和３年５月に再度水防法が改正され、避難訓練を実施した際の報告が義務付けされました。実際に地域の河川が氾濫すると、長期間にわたって浸水が継続する地域があり、電気・ガス・水道・下水道・電話・インターネット等の生活インフラが使用できない場合があります。そして、孤立者が多い場合、救助が来るまでに時間がかかることが予想されます。

他方で、洪水を引き起こすような大規模な台風は、洪水発生の数日前から気象予報等で知ることができます。水害時は浸水しない地域に早めに避難するという前提のもと、施設利用者や職員等の命を守るため、大規模な水害を想定し、いつ・誰が・どのような避難行動をとるのかをあらかじめ整理しておき、それらをまとめた避難確保計画を作成した上で、定期的な避難訓練を実施しておくことが防災の基本です。

災害が発生した時点で慌てることが無いよう、家庭や職場において誰一人置き去りにしない為に、当該施設においてどのような水害に備えるべきか、どのように対応すべきか、常日頃から検討・立案・訓練・振り返りをします。



避難確保計画の様式に沿って検討や整理を進める事で水害時の防災対応が計画できます。

POINT！

避難確保計画の骨子・・・３つのステップ

避難確保計画策定に向けたステップは３つだけ！

・当該施設で想定される水害（河川反乱、内水氾濫）

・当該施設の現状（施設整備、水害への備え）の把握

）

Ｓｔｅｐ１　現状把握

・水害に備えた情報の整理

・洪水時等の対応と避難方法の設定

・防災行動の設定（いつ、だれが、何をするのか）

）

Ｓｔｅｐ２　水害時の対策

・避難時に必要な備蓄や資機材の整理

・定期的な防災訓練の計画

）

Ｓｔｅｐ３　日頃から準備する

当該施設に起こる水害を想定しましょう

Ｓｔｅｐ１

１．計画の目的　２．計画の報告　３．計画の適用範囲　　は作成時に設定するものであり、設定後は特別な事情が無い限り変更の必要は有りません。

当該施設の現状を把握してみましょう

Ｓｔｅｐ１

４．施設の利用者数と職員数　は、原則毎年年度初めに利用者数の最大値、職員数の最大値を（平日）（夜間）（休日）に分けて設定します。

１．計画の目的

様式‐１

この避難確保計画は、要配慮者利用施設の管理者として、洪水・高潮発生時の円滑かつ迅速な避難確保を図ることを目的とする。発災時に、安全な避難行動を確実に行うことができるよう、管理者は、当該施設の利用者と職員に対する防災教育や訓練を行い、洪水等に関する知識を深めさせるとともに、訓練を通して課題を抽出し、必要に応じてこの計画の見直しを行う。２．計画の報告

計画を作成したときは、遅滞なく、当該計画を小松市へ報告する。また、必要に応じて見直し・修正したときも、当該部分を同様に報告する。

３．計画の適用範囲

当該施設を利用又は勤務する全ての者に適用する。

４．施設の利用者数・職員数

最大人数を記入する

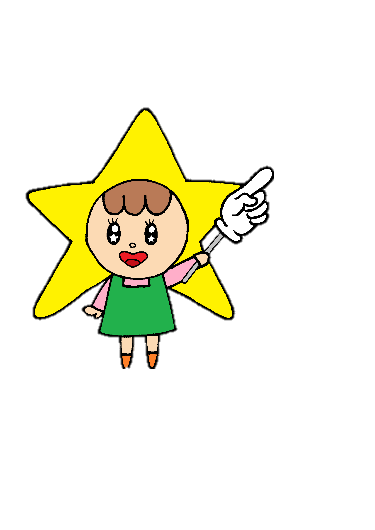
Ｓｔｅｐ１

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
|  | 利用者 | | 職員 | |
| 平日 | 休日 | 平日 | 休日 |
| 昼間 | ３５人 | ０人 | １０人 | ０人 |
| 夜間 | ０人 | ０人 | ０人 | ０人 |

５．　施設の水害リスク

様式‐２

POINT！



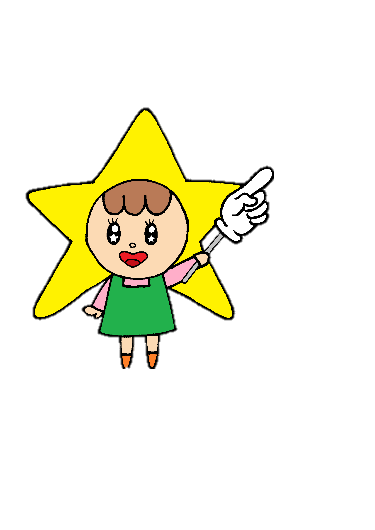
施設における水害の危険性を把握する為にまずは想定される水害リスクを確認しましょう。

避難確保計画には、きらら管内の・大杉谷川・郷谷川・梯川・西俣川・が氾濫した場合および内水氾濫・高水が発生した場合に、当該施設で想定される水害リスク（浸水深・浸水継続時間・早期立退き避難が必要な区域）を記載します。

様式‐３

６．　施設の影響と防災設備

POINT！



施設にどのような水害の影響や防災の備えがあるか、 どのような方が利用しているか確認します。

「５ 施設の水害リスク」で確認した想定される浸水深を踏まえ、当該施設の建物は最大「何階まで」「何時間」浸水する可能性があるのかを記入します。

なお、当該施設の各階の高さがわからない場合は、１階の高さ＝約３ｍを目安に考えましょう。現在、当該施設に何日分の備蓄量を用意しているのか、もしくは用意することが可能か、当該施設に非常用発電機はあるか、ある場合は設置

場所を確認して、記入します。

６ 施設の影響と防災設備

様式‐３

想定される最大の水害が発生した場合の施設の浸水階数、浸水継続時間、備蓄量、非常用発電機の設置状況は以下のとおりである。

施設の影響と防災設備を記入する

Ｓｔｅｐ１

|  |  |
| --- | --- |
| 施設の現状 | |
| 建物全体の階数 | １階 |
| 利用階数 | １階 |
| 最大浸水階数 | １階 |
| 最大浸水継続時間 | 最大１２日間 |
| 食料や水の備蓄 | 食料：１日分　/　水：３日分 |
| 非常用電源装置 | 施設発電機：　有　/　無 |
| 携帯発電機：　有　/　無 |
| 携帯クーラー | スポットクーラー：　有　/　無 |
| 避難用車両 | ミニバン：３台　軽バン：３台　軽ワゴン２台 |

増水量が河川の水位上昇３ｍまでなら、ＪＡきらら長谷デイサービスはフロアが広いため避難場所として使用可能。ただし防災情報がレベル３以上になると１次避難所である「松東みどり学園」に送迎車で避難する。

水害時の防災対策を考える

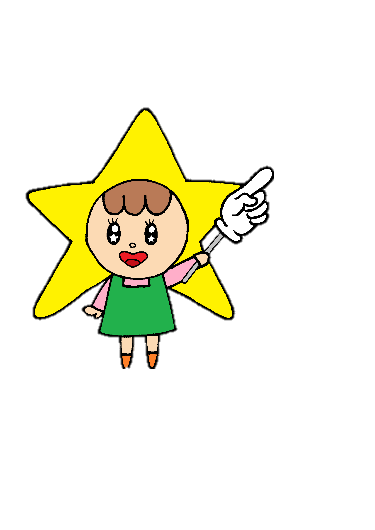
Ｓｔｅｐ２

Ｓｔｅｐ１で整理した内容を踏まえ施設における水害時の具体的な防災対応について検討します。

様式‐４

７．　気象情報や河川の水位情報及び避難情報の収集

POINT！



洪水等対応時に活用する情報とその収集方法を確認しておきましょう。

迅速に時間的余裕のある避難を行うためには、事前に、気象情報や河川の水位、上流域の降雨状況を確認することが非常に有効となります。

避難確保計画の「７ 気象・河川水位情報等及び避難情報の収集」に記載する表「収集する情報と収集方法」で、各種情報の収集方法を確認し、記載以外の収集方法があれば、追記しましょう。

次頁以降に各種情報の収集方法を解説していますので、実際にインターネットのサイト等へ移動し、情報内容等の確認や情報収集の訓練をしておきましょう。

水害時の防災対策を考える

Ｓｔｅｐ２

緊急速報メール（エリアメール）

携帯電話やスマートフォンを利用した災害時専用の情報配信の仕組みで「災害・避難情報」等、緊急かつ重要な情報を携帯電話に一斉に配信するサービスです。受信すると携帯電話の画面に配信内容が表示され、専用の着信音とバイブレーションで通知されます。なお、登録は不要です。

国土交通省「川の防災情報」

パソコンやスマートフォンで、雨量や河川水位、洪水予報等を確認できます。

【確認方法】川の防災情報トップページ

<http://www.river.go.jp/kawabou/ipTopGaikyo.do>

気象庁ホームページ

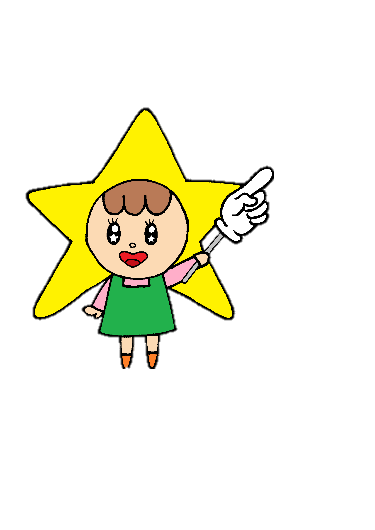
気象情報や台風情報、雨量（予測・実測）、洪水予報等情報を入手できます。

【確認方法】気象庁トップページ

http：//www.jma.go.jp/jma/index.html

８．　施設の対応と避難

POINT！



洪水時等に施設ではどのような対応と避難が出来るか検討しましょう。

様式‐5/6/7/8/9

水害に備えた当該施設の対応として、事前に、休校や休園、休所等のサービスを休止するのかを確認し、休止する場合は判断基準や家族・保護者等への連絡体制等を計画しておきましょう。施設によっては、利用者の家庭環境等の理由から利用者を受け入れる必要があり、施設のサービスを休止することができない場合や、中長期の降雨予測が困難であったため緊急対応が求められる場合があります。そのような場合の避難方法として、「６ 施設への影響と防災設備」の結果を踏まえ、当該施設以外の施設や避難所へ避難する『水平避難』を行うのか、安全を確保できる当該施設の上階へ避難する『垂直避難』を行うのかを検討します。

避難方法は、施設の水害リスクや利用者の特性等に応じて異なるため、次頁の「防災対応形態と対応・避難方法例」の留意点を参考に、検討しましょう。

また、水害時に利用者を家族・保護者へ引き渡す場合はある施設は、その手順等を具体的に計画しておきましょう。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 防災対応形態 | 対応・避難方法 |  |
| 水害に備えた事前のサービス休止 | サービスの休止 | サービスを休止する判断基準、市との連絡体制、家族・保護者との連絡体制等 |
| 洪水時等に施設が行う早めの避難対応 | 浸水域外の系列・協力施設への避難 | 避難先が土砂災害の危険性がないか確認する。 |
| 当該施設の上階避難 | 浸水継続時間を考慮した備えが必要である。  避難者全員が収容できる十分な広さが必要である。 |
| 浸水域内の系列・協力施設への避難 | 避難先が浸水の危険性がないか確認する。  避難先に浸水継続時間を考慮した備えがあるか確認する。  必要に応じて持ち出し品を用意する。 |
| 小松市外かつ浸水区域外の避難所への避難 | 持ち出し品、移動手段を確保する。 |
| 小松市内の建物（当該施設、系列・協力施設、指定避難所以外）への避難 |
| 小松市の指定避難所への避難 |
| 家族や保護者へ施設利用者の引き渡し | 家族や保護者への引き渡し | 混乱や手違いがないよう、引き渡し開始から終了までの具体的な流れを計画する。 |

防災対応形態と対応・避難方法例

８．　施設の対応と避難

様式‐５

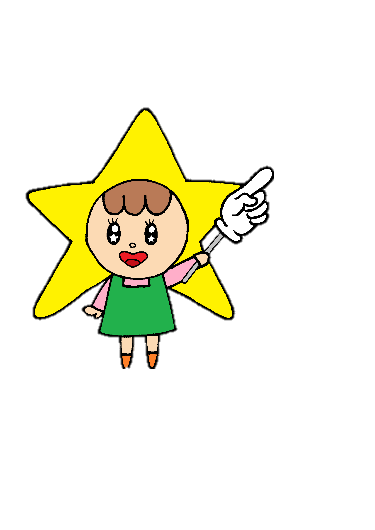
洪水時等の対応は、「水害に備えた事前のサービス休止」だけではなくサービス継続時の対応や緊急時の対応として「洪水時等に行う早めの避難対応」も検討しましょう。また「家族・保護者へ施設利用者の引き渡し」を検討しましょう。

該当する項目に✔を付ける

Ｓｔｅｐ２

|  |  |
| --- | --- |
| 防災対応形態 | 対応方法/避難方法 |
| ☑水害に備えた事前のサービス休止  様式-６に判断基準を記載する | ☑サービスの休止 |
| ☑洪水時等に施設が行う早めの避難対応  様式-７に避難対応を記載する | ☑施設の上階避難  ☑浸水域外の協力施設への避難  ☑浸水域内の協力施設への避難  ☑小松市外浸水区域外への避難  ☑小松市内浸水区域外への避難  ☑小松市指定避難所への避難  ☑小松市指定避難所以外への避難 |
| ☑家族や保護者へ利用者の引き渡し  様式-９に引き渡し状況を記載する | ☑家族や保護者へ利用者の引き渡し |

POINT！



サービス休止の判断基準や判断時期や緊急対応時に備えて避難場所も決めておきましょう。

「施設の対応・避難方法」の検討結果から、浸水区域内外の施設や避難所へ避難（水平避難）する場合は、避難先の名称とそこまでの移動距離、避難手段を記入してください。当該施設の上階へ避難（垂直避難）する場合は、避難する階数を記入してください。

浸水区域内外の施設や避難所へ避難（水平避難）する場合は、

避難先ごとに避難経路図を作成してください。

なお、様式－８経路図は、手書きでも結構です。大きな地図に書き込む場合は、別添でも結構です。地図の大きさに規定はありません。

移動手段に関する留意点

遠距離移動や往復で複数回移送（ピストン移送）を要する等、移動に時間がかかる場合は、避難訓練等で移動開始から完了までの所要時間を把握し、余裕を持った避難を計画しましょう。水害が発生もしくは発生する可能性が高まった場合、道路が渋滞したり、公共交通機関が使用できなかったりします。そのような状況を想定し、車両等による避難や早めの避難を計画しましょう。避難経路に関する留意点

避難経路として、アンダーパス等の冠水しやすい道路や土砂災害の危険がある道路を使用する場合は、移動中に被災する危険があります。そのため、雨が強くなる前に避難する、多少遠回りとなっても安全な道路を使用する等の対応を計画しましょう。

緊急避難に関する留意点

突然の激しい大雨等により、サービスの休止ができなかった場合や利用者が来てしまった場合、避難が遅れてしまった場合は、緊急的な対応が求められます。そのような場合、すでに内水氾濫が発生していたり、夜間に対応しなければならなかったり、短い移動であっても危険を伴う可能性があります。そのため、緊急的な対応として、当該施設や近くの堅牢な建物の上階等、避難所は複数設定しておきましょう。

水害に備えた事前のサービス休止

Ｓｔｅｐ２

様式‐6

|  |  |
| --- | --- |
| 防災対応形態 | 対応方法/避難方法 |
| ☑サービス休止の判断基準  分かり易さとレスポンスが大事です | ☑小松市からの情報や連絡  ☑テレビのニュース等報道  ☑公共交通機関の運休発表 |
| ☑サービス休止の判断時期  準備や連絡等の時間を考慮した、  判断の限界時間を想定して下さい | ☑交通状況が厳しくなる前日  ☑交通機関運休の前日  ※前日の時間とは１５時とする |

避難方法を検討する

Ｓｔｅｐ２

●避難対応に当たり、避難先や移動手段を計画しましょう

●人員の不足等により移送が困難な場合は、事前に要請先を決めておきましょう。

●車いすを必要とする方、松葉杖や義足を利用している方等、移動に特別な配慮が必要な利用者がいる場合は、そのような方の移動時間を十分に考慮して、避難対応を検討しましょう。

様式‐7

該当する項目に✔を付ける

Ｓｔｅｐ２

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 避難先 | 避難場所 | 移動距離 | 移動手段 |
| 当該施設以外への避難  （水平避難） | 松東みどり学園 | ３km | ☑徒歩  ☑公共交通機関  ☑車両（　台） |
| 上階への避難  （垂直避難） | 松東みどり学園 | １階から２階へ | ☑徒歩 |

※移送に支援が必要な場合

※移送に支援が必要な場合

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 移送支援要請先 | 要請人数 | TEL | FAⅩ |
| 粟津デイサービス | ２人 | 0761-43-0500 | 0761-43-0510 |
| 千代デイサービス | ２人 | 0761-23-6500 | 0761-23-6520 |

ＪＡきらら長谷デイサービス避難マップ

Ｓｔｅｐ２

様式‐7

|  |  |
| --- | --- |
| 避難先名称 | 小松市立松東みどり学園 |
| 避難経路図  みどり学園  ＪＡきらら | |

ＪＡきらら千代デイサービス避難マップ

Ｓｔｅｐ２

様式‐7

|  |  |
| --- | --- |
| 避難先名称 | 小松市立能美小学校 |
| 避難経路図    能美小学校  ＪＡきらら  ※水平移動が容易かつ最も近いが２次水平移動では国府中学校も検討可能。 | |

ＪＡきらら粟津デイサービス避難マップ

Ｓｔｅｐ２

様式‐7

|  |  |
| --- | --- |
| 避難先名称 | 小松サンアビリティーズ |
| 避難経路図    **ＪＡきらら**  **サンアビリティーズ**  ※近隣避難所で最も海抜が高く２次避難や引取利便性を優先する。 | |

家族への引き渡し方法を検討する

Ｓｔｅｐ２

●施設利用者の家族や保護者への引き渡しは大雨や暴風により移動が困難になる前に、余裕を持って行いましょう。

●お迎えに来る人へは緊急時により口頭での本人確認を可能とする。

●原則アセスメントに基づく指定代理人への引き渡しとなる旨の伝達は必要。

※家族や保護者への施設利用者の引き渡し

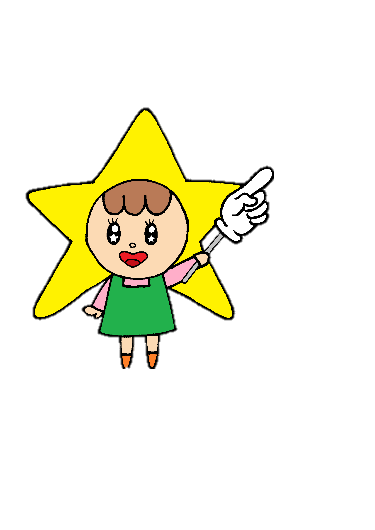
|  |  |
| --- | --- |
| 引渡方法 | ☑受付で引き取り者の身元確認をする  ☑利用者の生活状況、現在の身体状態を伝える  ☑利用者を引き渡し場所へ移動する  ☑今後の対応を確認し引き渡す  ☑徒歩  ☑徒歩 |
| 引渡場所 | ☑徒歩松東みどり学園生徒玄関  ☑児童クラブ玄関 |

●引き渡し時の連絡事項

☑引き渡し時のバイタル状況

☑当日の生活状況

POINT！



いつ、だれが、なにをするのか検討します。

気象庁が発表する気象警報や、足立区が発表する「高齢者等避難」のほか、施設独自の情報収集等をもとに、段階的な体制確立の考え方と、各体制に応じた活動内容及び役割分担を構築しておきましょう。

（１）要配慮者利用施設における防災対応の考え方

要配慮者利用施設における防災体制は、「注意体制」「警戒体制」「非常体制」の３つに分けられます。各体制の行動目標と体制を移行する判断基準は、以下の項目が挙げられます。なお、判断基準は、避難方法や利用者特性によって、以下に挙げた項目と異なる場合があります。その場合は、施設の実情に応じて、判断基準を追加・修正してください。

様式‐１０

要配慮者利用施設における防災対応基準

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| **防災体制** | 防災行動 | 判断基準 |
| **注意体制** | ①災害モードへ切替 | 気象や台風の注意情報発令 |
| ②避難準備を行う | 気象や台風の警戒情報発令 |
| **警戒態勢** | **③避難行動を開始する** | **高齢者避難情報発令**  **河川氾濫情報発令** |
| **非常態勢** | **④避難場所からの垂直移動を開始する** | **避難指示命令発令** |

内水氾濫に関する留意点

市が発令する避難情報は、内水氾濫に対応していません。そのため、施設が独自に避難の判断することが求められます。また、内水氾濫が発生した後に避難することは困難となることから、早めに避難を開始する必要があります。そのため、水害対応時には、降雨予測を注視するとともに、施設周辺の道路状況をこまめに確認することが重要です。要配慮者利用施設の避難に係るリードタイムについて

河川によって、高齢者等避難の発令から堤防決壊までの時間（リードタイム）が設定されています。足立区に影響のある河川のリードタイムは、荒川で１０時間、中川・綾瀬川・芝川・新芝川で８時間です。当該施設で避難にかかる所要時間を考慮した上で、避難開始のタイミングを設定しましょう。

避難情報について

河川の水位が上昇してくると、行政では以下のように避難情報を発令します。

|  |  |
| --- | --- |
| 情報の種類 | とるべき行動 |
| 高齢者等避難 | 要配慮者は浸水しない区域へ避難する。 |
| 避難指示 | 全員が浸水しない区域へ避難する |
| 緊急安全確保 | 避難先で上階が有れば直ちに避難する |

【参考】洪水予報について

・ 洪水予報とは、水防活動や避難行動の判断の参考となるように、気象庁が国土交通省、又は都道府県の機関と共同して発表する、あらかじめ指定した河川の水位や流量を示した情報です。

・ 「氾濫注意情報」、「氾濫警戒情報」、「氾濫危険情報」、「氾濫発生情報」、「氾濫注意情報解除」の５種類があります。それぞれの情報に対してとるべき対応の目安が設定されています。

洪水予報と発表された場合に取るべき行動

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| **洪水予報** | 市が発表する避難情報 | とるべき行動 |
| **氾濫注意情報** | **なし** | **避難行動の確認と準備** |
| **氾濫警戒情報** | **高齢者等避難** | **高齢者は避難を開始** |
| **氾濫危険情報** | **避難指示** | **浸水しない地域へ**  **速やかに避難する** |
| **氾濫発生情報** | **緊急安全確保** | **直ちに命を守る**  **行動をとる** |

（２）避難方法ごとの防災行動

洪水時等の要配慮者利用施設における防災行動例として、対応・避難方法ごとに以下の行動が挙げられます。これらの行動例は、様式-１０の「行動内容」欄に記載していますので、洪水時等に当該施設で実施する行動を検討し、チェックならびに必要に応じて追記をしましょう。

避難方法に対応した防災行動

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 防災  体制 | 避難方法 | | | | |
| 共通 | サービス休止 | 引渡 | 水平移動 | 垂直移動 |
| 注意  体制 | 気象情報の収集 | 家族へ休止予測の連絡 | 家族へ引渡予測の連絡 | 非常持ち出し品の確認 | 非常持ち出し品の確認 |
| 河川水位情報の収集 | 市とサービス休止の調整 |  | 移送支援者と車両の準備 | 非常電源や燃料の確保 |
| 鉄道等の運休情報の収集 | サービス休止の判断 |  | 避難先との調整 |  |
| 職員へ収集した情報の共有 | 家族へサービス休止の連絡 |  |  |  |
| 今後の対応の検討 | 市へサービス休止の連絡 |  |  |  |
| 今後の対応の連絡 |  |  |  |  |
| 重要書類の持ち出し準備 |  |  |  |  |
| 警戒  態勢 | 避難対応職員の参集 |  | 家族へ利用者引渡の判断 | 移送支援要請の連絡 | 上階へ  の垂直移動 |
| 避難情報の収集 |  | 家族へ利用者引渡の連絡 | 避難先へ避難開始の連絡 |  |
| 職員へ避難情報の共有 |  | 引渡の開始 | 避難先へ利用者の移送開始 |  |
| 職員へ避難行動の指示 |  |  | 避難先へ非常持ち出し開始 |  |
| 家族へ避難開始の連絡 |  |  | 市へ避難完了の連絡 |  |
| 非常  体制 | 避難情報の収集 |  |  | 職員の避難 |  |
| 職員へ避難情報の共有 |  |  | 市へ避難先と避難完了連絡 |  |
| 職員へ避難行動の指示 |  |  |  |  |

９．　洪水時等の行動

様式‐１０-1

災害に備えて情報収集を開始する

注意体制①

気象情報から注意報警報発令された場合

判断基準①

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 防災行動内容・・・何を！ | 対応者・・・誰が！ | 備考 |
| **☑**気象情報や台風情報等の収集  **☑**　河川水位情報の収集  **☑**　鉄道等の計画運休情報の収集  **☑**　施設管理者や職員へ収情報の共有  **☑**　今後の対応の検討  **☑**　職員へ今後の対応の連絡  **☐**  **☐** | 情報統括班  情報統括班  情報統括班  情報統括班  情報統括班  情報統括班 |  |

様式‐１０-2

避難に向けた準備を開始する

注意体制②

大雨洪水高潮注意報が発表された場合

判断基準②

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 方法 | 防災行動内容→何を！ | 対応→誰が！ | 備考 |
| **☑**共通 | **☑**今後の対応の検討  **☑**　職員へ今後の対応の連絡  **☑**　重要物の持ち出し準備  **☑**　施避難対応職員の調整/参集 | 情報統括班  情報統括班  情報統括班  情報統括班 |  |
| **☑**休止 | **☑**利用者や家族への連絡  **☑**　市とサービス休止の調整/連絡  **☑**　サービス休止の判断  **☑**　市と利用者へサービス休止の連絡 | 情報統括班  情報統括班  情報統括班  情報統括班 |  |
| **☑**引渡 | **☑**家族/保護者への引渡連絡 | 情報統括班 |  |
| **☑**  水平避難 | **☑**非常時持ち出し品の確認  **☑**移送支援者と移送支援車の準備  **☑**移送先との連絡と調整 | 施設管理班  施設管理班  情報統括班 |  |
| **☑**  垂直避難 | **☑**備蓄品/機材の確認と準備  **☑**非常用電源/冷暖房の確保 | 施設管理班  施設管理班 |  |

避難/引渡/水平移動を開始する

警戒体制③

様式‐１０-3

高齢者等避難指示/勧告が発令された場合

判断基準③

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 方法 | 防災行動内容→何を！ | 対応→誰が！ | 備考 |
| **☑**共通 | **☑**今後の対応の検討  **☑**　職員へ今後の対応の連絡  **☑**　重要物の持ち出し準備  **☑**　施避難対応職員の調整/参集 | 情報統括班  情報統括班  情報統括班  情報統括班 |  |
| **☑**引渡 | **☑**利用者や家族への連絡  **☑**　市とサービス休止の調整/連絡  **☑**　サービス休止の判断  **☑**　市と利用者へサービス休止の連絡 | 情報統括班  情報統括班  情報統括班  情報統括班 |  |
| **☑**  水平避難 | **☑**移送支援要請の連絡  **☑**避難先への利用者の移動  **☑**避難先へ非常時備品の持ち出し  **☑**市への避難先への避難完了報告 | 情報統括班  避難誘導班  避難誘導班  情報統括班 |  |
| **☑**  垂直避難 | **☑**上階へ施設利用者の移動  **☑**市への避難先への避難完了報告 | 避難誘導班  情報統括班 |  |

該当施設の上階へ垂直避難を開始する

非常体制④

様式‐１０-4

避難指示が発令された場合

判断基準④

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 方法 | 防災行動内容→何を！ | 対応→誰が！ | 備考 |
| **☑**共通 | **☑**避難情報の収集  **☑**　施設管理者や職員への情報共有  **☑**　職員への今後の対応の連絡 | 情報統括班  情報統括班  情報統括班 |  |
| **☑**  水平避難 | **☑**職員の避難  **☑**　市へ避難先と避難完了の連絡 | 全職員  情報統括班 |  |
| **☑**  垂直避難 | **☑**上階へ職員の避難  **☑**市へ避難先と避難完了の報告 | 避難誘導班  情報統括班 |  |

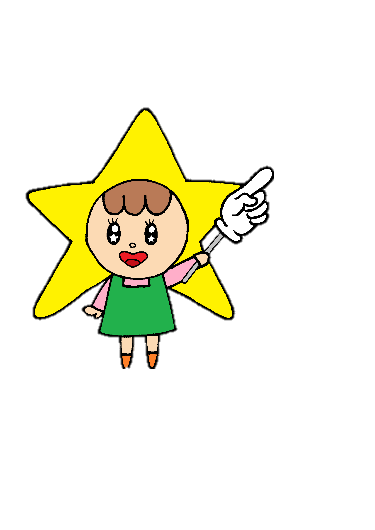
水害に備えて日頃から準備する

Ｓｔｅｐ３

様式‐１１

１０．　備蓄品と非常時持ち出し品

POINT！



備蓄品や非常時持ち出し品を確認し準備します。

水害時の避難に必要な備蓄品や非常持ち出し品、できる限り浸水を防ぐための資機材を確認し、記入しましょう。なお、備蓄品とは、当該施設の上階へ避難（垂直避難）する場合に備え、用意しておくもの、非常持ち出し品とは、当該施設外の施設や避難所に避難する場合に持っていくものを指します。

■　備蓄品や非常時持ち出し品の留意点

当該施設の上階へ避難（垂直避難）する場合、浸水継続時間を考慮した十分な量の備蓄品が必要となります。

停電を想定して懐中電灯の乾電池や携帯電話の予備バッテリー等も用意しておきましょう。可能であれば携帯発電機を備えましょう。

事前に用意しておくことが可能な非常持ち出し品は、袋等にまとめて入れておきましょう。また、日頃、使用しているため袋に入れておくことができないものについては、避難時に持っていくことを忘れないよう、避難確保計画に記入しておきましょう。

* 浸水対策

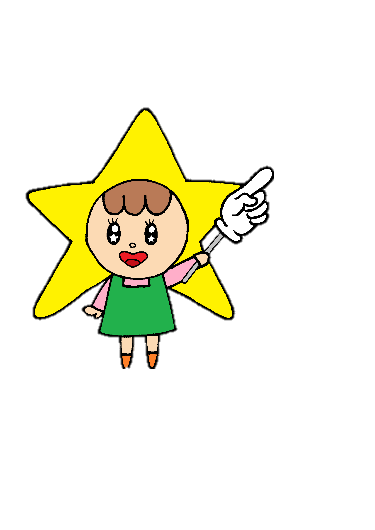
身近にある物で、簡易的な浸水対策が可能です。以下の一例を参考に、日頃から資機材の用意、設置の訓練をしておきましょう。

|  |  |
| --- | --- |
| プランター | 段ボール箱 |
|  |  |
| プランターを並べて隙間を作らないようにブルーシートで覆います | ダンボール箱に水のうを入れて並べます。ダンボール箱はビニール袋やブルーシート等で覆います。 |
| 簡易止水板 | 簡易水のう |
|  |  |
| 出入口を長めの板等でふさぎ、土のうや水のうで固定します。 | 家 庭 で 使 用 し て い る ご み 袋を利用できます。 |

１１．　防災教育と訓練

様式‐１２

POINT！



水害時に円滑な対応ができるように日頃の防災教育や訓練を計画しておきましょう。

防災教育（講習会、勉強会等）や防災訓練の内容とその実施時期、対象者等を計画します。防災教育や防災訓練は、水害の危険性が高まる６月までに実施することが望ましいでしょう。

■　避難訓練の例

・ 各種情報を収集・伝達する「情報伝達訓練」

・ 施設利用者を家族・保護者に引き渡す「引き渡し訓練」

・ 水害時を想定して施設職員が施設に参集する「非常参集 訓練」

・ 施設利用者や職員が避難先まで避難する「避難訓練」

１１．　防災教育と訓練

様式‐12

災害時に迅速で的確な判断や行動が出来るよう

日頃から以下の防災教育と訓練を行うもの。

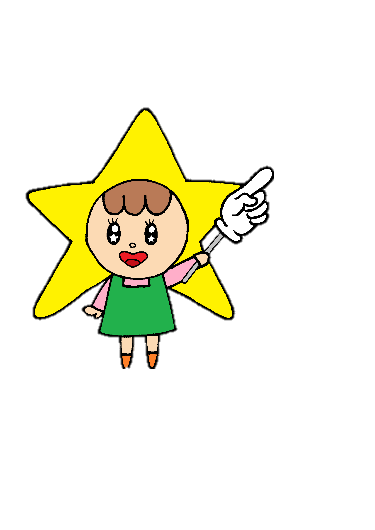
目的

防災教育計画／防災訓練計画

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 防災教育と訓練の項目 | 実質月日 | 実施頻度 | 備考 |
| **☑**職員への防災教育  **☑**　職員への避難確保計画情報の共有  **☑**　職員への過去の反省点等の共有 | ４月　　１日 | **☑**毎年  **☑**年に１回 |  |
| **☑**利用者への防災教育  **☑**　水害の危険性や避難場所の説明  **☑**　職緊急時の対応や家族への説明 | 月　　　　日 | **☑**毎年  **☑**年に１回 | 職員採用時  研修時に説明 |
| **☑**情報伝達訓練  **☑**　職員への緊急連絡網の施行  **☑**　家族への情報伝達手段 | ８月　　１日 | **☑**毎年  **☑**年に２回 |  |
| **☑**引渡訓練  **☑**　家族への引き渡し方法  **☑**　家族への引渡し所要時間 | ８月　　１日 | **☑**毎年  **☑**年に１回 |  |
| **☑**非常時参集訓練  **☑**　緊急連絡網の試行  **☑**　連絡から参集までの所要時間 | ８月　　１日 | **☑**毎年  **☑**年に２回 |  |
| **☑**避難訓練  **☑**　体制と役割分担の確認  **☑**　開始から避難開始までの所要時間  **☑**　避難開始から完了までの所要時間 | ９月　　１日 | **☑**毎年  **☑**年に１回 |  |
| **☑**避難確保計画の見直しと更新 | ３月　　１日 | **☑**毎年  **☑**年に１回 |  |

１２．　防災体制一覧表の作成

POINT！



施設の防災体制や連絡先や誘導方法を確認します。

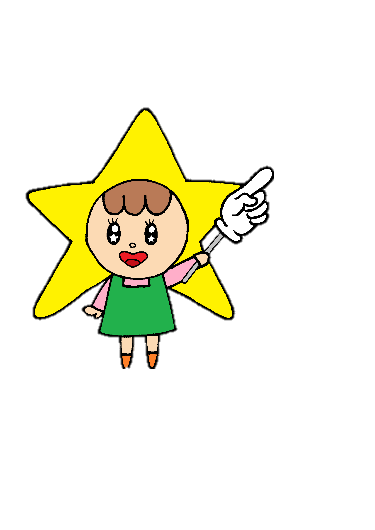
様式‐13/14/15/16

施設における、災害時の防災体制や施設利用者の緊急連絡先及び避難誘導方法、施設職員の緊急連絡先を計画・整理しておきましょう。既に防災体制を確立していたり、名簿や連絡網を作成している場合は、それに差し替えましょう。

様式‐1７/別添１/別添２

１３．　防災体制一覧表の作成

POINT！



自衛水防組織を設置する場合に作成します。

自衛水防組織は、洪水時等の円滑かつ迅速な避難の確保を行うことを目的に、施設管理者等の役割・権限・責任等を定めることとなります自衛水防組織の設置は努力義務ですが、自衛水防組織を設置する場合には作成してください。

様式‐1３-長谷デイ

ＪＡきらら長谷老人在宅介護総合施設

管理権限者　（施設長　寺田　秀史）　（代行者　長田　将宣）

重要

◆洪水等に円滑に判断や対応が出来るよう役割分担を決めてお　きましょう。

◆避難確保計画と役割分担は常に見直しましょう

◆施設の見やすい所に掲示し日頃から職員で共有しましょう。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 統括・情報班 | 担当者 | 役割 |
| 班長　（　丸　和也　）  班員　３名  　　１．川岸　佳奈恵  ２．中村　忍  ３．山本　真由子 | **☑**自衛水防活動の指揮統括  **☑**　施設館内放送による避難の呼び掛け  **☑**　防洪水予報等の情報収集  **☑**　防関係者および関係機関への連絡 |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 避難・誘導班 | 担当者 | 役割 |
| 班長　（　中村　容子　）  班員　６名  　　１．谷口　梢  ２．加藤　容子  ３．大森　奈央子  ４．辻　直樹  ５．東郷　らら  ６．升崎　静香 | **☑**避難誘導  **☑**　避難開始時→要救助者の確認/人数確認  避難経路確認→利用者のグループ分け  車両移動の場合は利用者の順番分け  **☑**　避難時→未避難者の確認  **☑**　避難先到着時→けが人の確認  **☑**　避難先到着時→人数確認 |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 施設管理班 | 担当者 | 役割 |
| 班長　（　西田ちはる　）  班員　３名  　　１．今泉　雅美  ２．三浦　真理  ３．由本　敬子 | **☑**施設警備の管理  **☑**　衛生環境の管理  **☑**　備蓄品、衛生品の管理  **☑**　災害時での備蓄品や衛生品の持ち出し  **☑**　災害時での発電機や暑さ寒さ対策/対応 |

様式‐1３-千代デイ

ＪＡきらら千代デイサービスセンター

管理権限者　（施設長　寺田　秀史）　（代行者　大音師　正樹）

重要

◆洪水等に円滑に判断や対応が出来るよう役割分担を決めてお　きましょう。

◆避難確保計画と役割分担は常に見直しましょう

◆施設の見やすい所に掲示し日頃から職員で共有しましょう。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 統括・情報班 | 担当者 | 役割 |
| 班長　（　大音師正樹　）  班員　２名  　　１．山二　菜穂  ２．土屋　貴子 | **☑**自衛水防活動の指揮統括  **☑**　施設館内放送による避難の呼び掛け  **☑**　防洪水予報等の情報収集  **☑**　防関係者および関係機関への連絡 |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 避難・誘導班 | 担当者 | 役割 |
| 班長　（　北村　真理　）  班員　３名  　　１．竹田　寿美恵  ２．渡辺　陽子  ３．中田　美枝 | **☑**避難誘導  **☑**　避難開始時→要救助者の確認/人数確認  避難経路確認→利用者のグループ分け  車両移動の場合は利用者の順番分け  **☑**　避難時→未避難者の確認  **☑**　避難先到着時→けが人の確認  **☑**　避難先到着時→人数確認 |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 施設管理班 | 担当者 | 役割 |
| 班長　（　黒田　紗友里　）  班員　１名  　　１．村田　恵莉子 | **☑**施設警備の管理  **☑**　衛生環境の管理  **☑**　備蓄品、衛生品の管理  **☑**　災害時での備蓄品や衛生品の持ち出し  **☑**　災害時での発電機や暑さ寒さ対策/対応 |

様式‐1３-粟津デイ

ＪＡきらら粟津デイサービスセンター

管理権限者　（施設長　寺田　秀史）　（代行者　中田　恵美子）

重要

◆洪水等に円滑に判断や対応が出来るよう役割分担を決めてお　きましょう。

◆避難確保計画と役割分担は常に見直しましょう

◆施設の見やすい所に掲示し日頃から職員で共有しましょう。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 統括・情報班 | 担当者 | 役割 |
| 班長　（　中田　恵美子　）  班員　１名  　　１．徳田　祥子 | **☑**自衛水防活動の指揮統括  **☑**　施設館内放送による避難の呼び掛け  **☑**　防洪水予報等の情報収集  **☑**　防関係者および関係機関への連絡 |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 避難・誘導班 | 担当者 | 役割 |
| 班長　（　吉本　昌世　）  班員　５名  　　１．坂井　昌美  ２．松村　美恵子  ３．木下　広恵  ４．森　静子  ５．広崎　良枝 | **☑**避難誘導  **☑**　避難開始時→要救助者の確認/人数確認  避難経路確認→利用者のグループ分け  車両移動の場合は利用者の順番分け  **☑**　避難時→未避難者の確認  **☑**　避難先到着時→けが人の確認  **☑**　避難先到着時→人数確認 |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 施設管理班 | 担当者 | 役割 |
| 班長　（　北方　宏昌　）  班員　１名  　　１．南出　京子  １．永田　洋子 | **☑**施設警備の管理  **☑**　衛生環境の管理  **☑**　備蓄品、衛生品の管理  **☑**　災害時での備蓄品や衛生品の持ち出し  **☑**　災害時での発電機や暑さ寒さ対策/対応 |

施設利用者の緊急連絡先及び避難誘導方法一覧表

様式‐1４

※上記一覧表の対応欄には、以下の該当する番号を記入して下さい。

◆対応内容欄・・・　１．単独歩行　２．介助必要　３．車椅子　４．ストレッチャー　５．その他

６．自宅に帰宅可能　７．病院に搬送を優先　８．その他

|  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 利用者指名 | 連絡先（家族/保護者） | | 対応内容 | 移動手段 | | 担当者 | 備考 |
| 氏名 | 電話番号 | 水平移動 | 垂直移動 |
| 〇〇 〇〇 | 〇〇 〇〇 | 〇〇 〇〇 | 4 | 自動車 | ストレッチャー | 谷口 |  |
|  |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  | ≪記入例≫  介護ソフト内基本情報抽出情報での対応でも可能。  （各デイサービスで作成） |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |  |

施設職員緊急時連絡網

様式‐1５

≪記入例≫

各事業所に設置するBCPの連絡網での対応も可能。

（各デイサービスで作成済）

施設長　寺田秀史

○○○-○○○〇-○○○○

代行者　長田将宣

○○○-○○○〇-○○○○

●●　●●

○○○-○○○〇-○○○○

●●　●●

○○○-○○○〇-○○○○

●●　●●

○○○-○○○〇-○○○○

●●　●●

○○○-○○○〇-○○○○

●●　●●

○○○-○○○〇-○○○○

●●　●●

○○○-○○○〇-○○○○

●●　●●

○○○-○○○〇-○○○○

●●　●●

○○○-○○○〇-○○○○

●●　●●

○○○-○○○〇-○○○○

●●　●●

○○○-○○○〇-○○○○

●●　●●

○○○-○○○〇-○○○○

●●　●●

○○○-○○○〇-○○○○

●●　●●

○○○-○○○〇-○○○○

●●　●●

○○○-○○○〇-○○○○

●●　●●

○○○-○○○〇-○○○○

●●　●●

○○○-○○○〇-○○○○

●●　●●

○○○-○○○〇-○○○○

●●　●●

○○○-○○○〇-○○○○

●●　●●

○○○-○○○〇-○○○○

●●　●●

○○○-○○○〇-○○○○

●●　●●

○○○-○○○〇-○○○○

外部機関等緊急連絡先一覧表

様式‐1６

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 連絡先 | 電話番号 | 備考 |
| 石川県健康福祉部長寿社会課 | 076-225-1487 | 公共施設 |
| 小松市予防先進部長寿介護課 | 0761-24-8147 |
| 小松警察署 | 0761-22-0110 |
| 小松消防署 | 0761-20-1119 |
| 松東みどり学園（長谷デイ付近） | 0761-41-1070 | 長谷デイ避難所  児童クラブ所在地 |
| ふれあい松東（市立公民館） | 0761-23-5961 | 地区体育館併設  （きらら長谷隣接施設） |
| 特養 愛らんど萌寿（長谷デイ付近） | 0761-46-1112 | 特養 |
| ウエルネスかねの（長谷デイ付近） | 0761-41-1555 | 有料老人ホーム |
| うめの木学園（長谷デイ付近） | 0761-41-1301 | 障碍者支援施設 |
| ウエルネスふらま（千代デイ付近） | 0761-47-5022 | 有料老人ホーム |
| 小松市立能美小学校（千代デイ付近） | 0761-24-0410 | 千代デイ１次避難所 |
| 小松市立国府中学校（千代デイ付近） | 0761-47-2079 | 千代デイ２次避難所 |
| 小松市立符津小学校（粟津デイ付近） | 0761-44-2596 | 粟津デイ１次避難所 |
| 小松市立南部中学校（粟津デイ付近） | 0761-44-2560 | 粟津デイ２次避難所 |

指定１次避難所

　　　　　２次避難所に適している耐震性高層建物

１２ 　自衛水防組織の業務に関する事項

別添

１．自衛水防組織活動要領に基づき自衛水防組織を設置する。

２．自衛水防組織は、以下のとおり訓練を実施するものとする。

① 毎年４月に新たに自衛水防組織員となった職員を対象とし研修を実施する。

② 毎年９月に行う全従業員を対象とした訓練に先立って、自衛水防組織の全構成員を対象とした情報収集・伝達及び避難誘導に関する訓練を実施する。

３．自衛水防組織の報告

① 自衛水防組織を組織した時は遅滞なく当該計画を小松市へ報告する。

自衛水防組織活動要領

別添

（自衛水防組織の編成）

第１条 管理権限者は、洪水時等において避難確保計画に基づく円滑かつ迅速な避難を確保するため、自衛水防組織を編成するものとする。

２ 自衛水防組織には、統括管理者を置く。

(１) 統括管理者は法人本部施設長とし、管理権限者の命を受け、自衛水防組織の機能が有効に発揮できるよう組織を統括する。

(２) 統括管理者は、洪水時等における避難行動について、その指揮、命令、監督等一切の権限を有する。

３ 管理権限者は、統括管理者の代行者（各センター長）を定め、当該代行者に対し、統括管理者の任務を代行するために必要な指揮、命令、監督等の権限を付与する。

４ 自衛水防組織に、班を置く。

(１) 班は、総括・情報班及び避難誘導班及び施設管理班とし、各班に班長を置く。

(２) 各班の任務は、様式-１３に掲げる任務とする。

(３) 防災センター（最低限、通信設備を有するものとする）を自衛水防組織の活動拠点とし、防災センター勤務員及び各班の班長を自衛水防組織の中核として配置する。

（自衛水防組織の運用）

第２条 管理権限者は、従業員の勤務体制（シフト）も考慮した組織編成に努め、必要な人員の確保及び従業員等に割り当てた任務の周知徹底を図るものとする。

２ 特に、休日・夜間も施設内に利用者が滞在する施設にあって、休日・夜間に在館する従業員等のみによっては十分な体制を確保することが難しい場合は、管理権限者は、近隣在住の従業員等の非常参集も考慮して組織編成に努めるものとする。

３ 管理権限者は、災害等の応急活動のため緊急連絡網や従業員等の非常参集計画を定めるものとする。

（自衛水防組織の装備）

第３条 管理権限者は、自衛水防組織に必要な装備品を整備するとともに、適正な維持管理に努めなければならない。

(１) 自衛水防組織の装備品は、別表１「自衛水防組織装備品リスト」のとおりとする。

(２) 自衛水防組織の装備品については、統括管理者が防災センターに保管し、必要な点検を行うとともに点検結果を記録保管し、常時使用できる状態で維持管理する。

（自衛水防組織の活動）

第４条 自衛水防組織の各班は、避難確保計画に基づき情報収集及び避難誘導等の活動を行うものとする。

自衛水防組織装備品リスト

別表１

|  |  |
| --- | --- |
| 総括・情報班 | 名簿　　　　　　　　　　　　　　　照明器具  ☐　従業員　　　　　　　　　　　　　☐　懐中電灯  ☐　利用者　　　　　　　　　　　　　☐　投光器  情報収集/伝達機器　　　　　　　　 　☐　投光器  ☐　ラジオ  ☐　トランシーバー  ☐　携帯電話  ☐ |
| 避難誘導班 | 名簿　　　　　　　　　　　　　　　照明器具  ☐　従業員　　　　　　　　　　　　　☐　懐中電灯  ☐　利用者　　　　　　　　　　　　　☐　投光器  誘導の標識　　　 　　　　　　　　 　☐  ☐　案内旗　　　　　　　　　　　　　その他器具  ☐　　　　　　　　　 ☐　携帯電話拡声器  情報収集/伝達機器　　　　　　　　　 ☐　誘導用ライフジャケット  ☐　ラジオ  ☐　タブレット  ☐　携帯電話 |
| 施設管理班 | 管理リスト　　　　　　　　　　　　　照明器具  ☐　従業員　　　　　　　　　　　　　☐　懐中電灯  ☐　利用者　　　　　　　　　　　　　☐　投光器  情報収集/伝達機器　　　　　　　　 　☐  ☐　ラジオ　　　　　　　　　　　　　その他器具  ☐　タブレット　　　　　　　　　　　☐　非常用発電機  ☐　携帯電話　　 　　　　　　　　　 ☐　夏場用スポットクーラー |
|  |  |

用語集

|  |  |
| --- | --- |
| 用語 | 解説 |
| 要配慮者利用施設 | 社会福祉施設・学校・医療施設、その他の主として防災上の配慮を要する方々が利用する施設 |
| 家屋倒壊等氾濫想定区域 | 家屋の倒壊・流失をもたらすような堤防決壊に伴う激しい氾濫流や河岸侵食が発生することが想定される区域。 |
| 土砂災害警戒区域 | 土砂災害が発生した場合に居住者等の生命又は身体に危害が生じるおそれがあると認められる区域。 |
| 土砂災害特別警戒区域 | 土砂災害警戒区域のうち、土砂災害が発生した場合に建築物に損壊が生じ居住者等の生命又は身体に著しい危害が生ずるおそれがあると認められる区域。 |
| 水害 | 洪水や高潮等、水によりもたらされる被害の総称 |
| 外水氾濫 | 台風や大雨等によって川の水が堤防からあふれたり、堤防が決壊したりすることによって発生する洪水 |
| 内水氾濫 | 市街地等に降った雨が排水路や下水管の雨水処理能力を超えた際や、雨で川の水位が上昇して市街地等の水を川に排出することができなくなった際に、市街地等に水があふれてしまう浸水害 |
| 浸水想定区域 | 大雨により河川が氾濫した場合等に浸水が想定される区域 |
| 浸水継続時間 | 任意の地点において、浸水深０．５ｍに達してからその水深を下回るまでにかかる時間 |
| 早期立退避難必要区域 | 木造家屋が倒壊するような流速になる等の場合があり、早期の立退き避難が必要になる区域 |
| 基準水位観測所 | 国や都道府県が河川の水位の情報を提供する予め定められた水位観測所 |
| 垂直避難 | 災害が発生して身が危険にさらされる可能性がある状況で、避難場所等までは避難する時間的な余裕がないために、自宅や近隣ビルの上の階等に避難すること |
| 水平避難 | 避難場所等に避難すること |
| 広域避難 | 住民が住んでいる市区町村の外に逃げる避難形態 |
| 屋内安全確保 | 洪水及び高潮等において、住宅構造の高層化や浸水想定（浸水深、浸水継続時間等）等を考慮し、災害リスクのある区域等に存する自宅・施設等において上階への移動や高層階に留まること等により、計画的に身の安全を確保すること：￥」」」」　　　。 |
| 立退き避難 | 災害リスクのある区域等の居住者等が、自宅・施設等にいては命が脅かされるおそれがあることからその場を離れ、対象とする災害から安全な場所に移動すること。 |
| 洪水ハザードマップ | 大雨により河川が氾濫した場合等に備え、水害に関する情報を提供して住民の避難に役立てることを目的に、浸水が想定される区域や浸水の程度、避難等の情報を記載したもの |

|  |  |
| --- | --- |
| 用語 | 解説 |
| 施設管理者等 | 要配慮者利用施設等の所有者又は管理者をいう。 |
| 施設利用者 | 要配慮者利用施設の利用者をいう。 |
| 施設職員 | 要配慮者利用施設の職員をいう。 |
| 避難支援協力者 | 施設利用者の家族、避難支援の協力を得ることとしている外部協力者をいう。 |
| 総括指揮者 | 要配慮者利用施設等の所有者又は管理者など、水害または土砂災害が発生するおそれがあるときに全体を指揮する者をいう。 |
| 情報連絡班 | 水害または土砂災害が発生するおそれがあるときに、主に防災気象情報の収集や情報の伝達を担当する班をいう。 |
| 避難誘導班 | 水害または土砂災害が発生するおそれがあるときに、主に施設利用者の避難支援（避難誘導）を担当する班をいう。 |
| 装備品等準備班 | 水害または土砂災害が発生するおそれがあるときに、主に避難に必要な設備や装備品、備蓄品、避難先への持ち出し品等を点検し準備する班をいう。 |